

豊後高田の神社巡りの旅



市指定・若宮八幡神社本殿



市指定・別宮八幡社楼門



国登録・春日神社拝殿

平成27年5月23日(土)

豊後高田市教育委員会

(1) 本日の行程

08:45 豊後高田市役所高田庁舎東側駐車場 集合、受付

09:00 バスで出発、宇佐神宮へ。

09:20 宇佐神宮着。宇佐市教委・江藤主幹からの説明、見学。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ・宇佐神宮造営図(国指定)：鎌倉～室町時代 | ・豊前國宇佐宮絵図(国指定)：室町時代 |
| ・宇佐神宮本殿(国宝)：江戸時代／八幡造 | ・南中楼門(県指定)：江戸時代／入母屋造 |
| ・北辰神社(県指定)：江戸時代／八幡造 | ・西大門(県指定)：江戸時代／向唐門 |
| ・高倉(県指定)：江戸時代／板倉造 | ・呉橋(県指定)：江戸時代／屋根桧皮葺 |

11:20 宇佐神宮発。

11:40 若宮八幡神社着。宮司及び担当からの説明、見学。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ・本殿(市指定)：江戸時代後期／流造 | ・申殿(市指定)：江戸時代後期／入母屋造 |
| ・唐門(市指定)：江戸時代後期／向唐門 | ・西門(市指定)：江戸時代後期／四脚門 |
| ・若宮八幡神社祭礼絵図縁起(市指定)：江戸時代 | |

12:15 若宮八幡神社 見学終了

12:15 昼食・休憩(御弁当：若宮八幡神社)

13:00 若宮八幡神社発。

13:30 別宮八幡社着。宮司及び担当からの解説、見学。

- | | |
|------------------|------------------------|
| ・潮観橋(県指定)：江戸時代後期 | ・別宮八幡楼門(市指定)：明治時代／入母屋造 |
|------------------|------------------------|

14:00 別宮八幡社発。

14:30 春日神社着。総代・宮司及び担当からの解説、見学。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| ・本殿(国登録)：江戸末期／流造 | ・申殿(国登録)：明治時代／切妻造 |
| ・拝殿(国登録)：大正時代／入母屋造 | ・春日神社潮汲絵巻(市指定)：江戸時代後期 |

15:00 春日神社発。豊後高田市役所高田庁舎へ

15:15 帰着、解散

※上記時間は目安です。見学・解説等によって実際の時間が前後することがあります。

(2) 神社建築の基礎知識

■神社建築の始まり

○古代の人々は神聖な山、滝、岩、森、巨木などに神が宿るとして敬いました。お祭りの時には、そのような場所に神々を迎える祭壇が臨時に設けられ、祭りが終わると神をお送りしていました。これが次第に変化し、常設化したものが「神社の起源」と考えられています。



写真：「那智の滝」(飛瀧神社)

○よって創建の古い神社では、大神神社(奈良県)や宗像大社(福岡県)のように拝殿のみ

の神社や、那智の滝を御神体とする飛瀧神社(和歌山県)では本殿も拝殿も無く、滝を直接拝むところもあります。

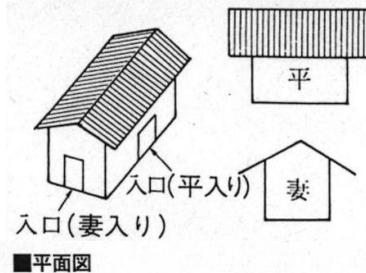
○さらに仏教伝来に伴い、仏教建築からの強い刺激とそれに対抗する意識によって神社建築は創造されたのだと考えられています。

Point! 一妻入と平入。桁行と梁間。

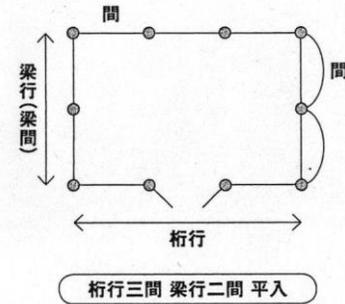
柱と柱のあいだを「間」といいます。

屋根の三角形がみえる側を「妻」、そうでない側を「平」といいます。妻に入口があれば「妻入」、平に入口があれば「平入」となります。入口がある方向が建物の「正面」。

建物の方向を示す言葉として、建物の長辺方向に桁が通る方向が「桁行」、短辺方向の梁が通る方向が「梁間」です。右図では「桁行三間 梁間二間 平入」となります。柱と柱の間を「間」といい、尺貫法の長さの単位(≒1.8m)のことではないです。

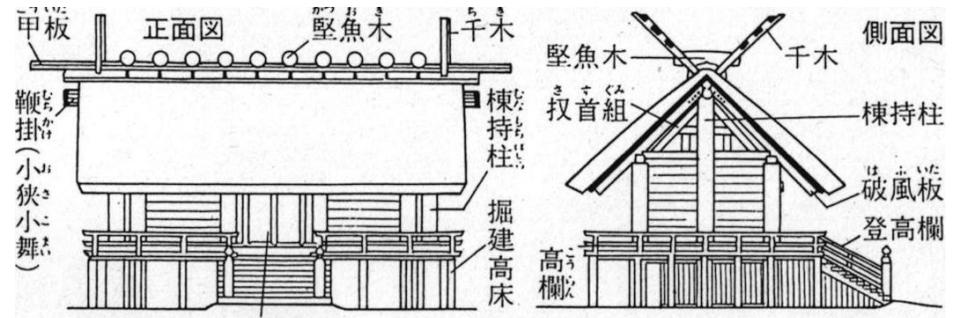


■平面図



■多様な本殿形式

【神明造】～出雲大社(大社造)などと並ぶ伊勢神宮の古式～



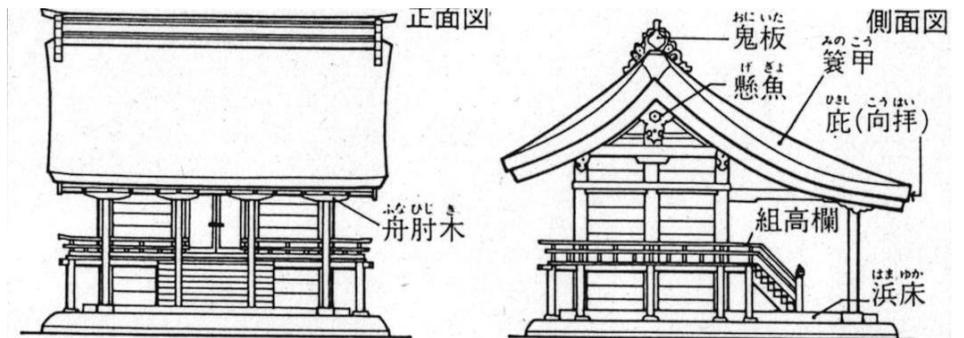
○伊勢神宮(三重県)の本殿形式で、大社造などとともに飛鳥時代に起源がさかのぼる最古の神社本殿形式とされます。

○弥生時代に穀物(米)を納めた高床式倉庫から発展したとも(諸説あり)。

○桁行三間梁間二間(方一間もあり)・切妻造・平入で、丸柱・掘建式が原則。



【流造】～全国の本殿の6割を占める最も「普遍的」な形式～

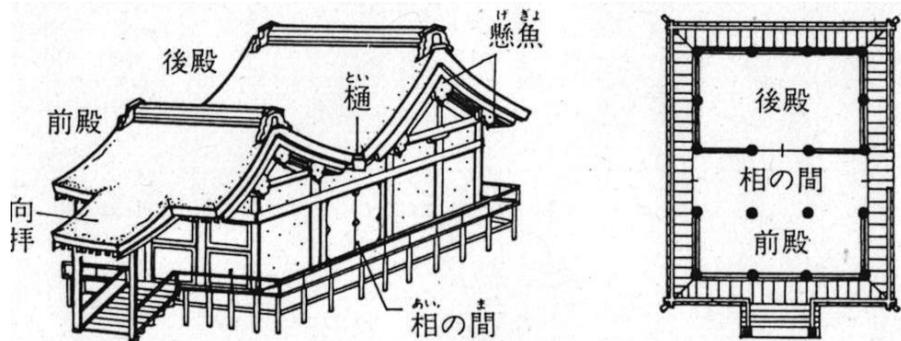


○神明造から発展し、雨除けの庇(≒向拝)が付いた「実用的」な社殿。奈良時代頃に仏教建築の影響を受けて成立したとされています。

○切妻造の平入。照り屋根(≒反り屋根)で、母屋の柱は丸柱、向拝の柱は角柱と使い分けています。

○柱間は一間の場合から～十一間までを、それぞれ一間社流造から十一間社流造と呼びます。ただし、三間社流造(上図)が最も多い形です。

【八幡造】^{はちまんづくり} ～神様が過ごされる、二棟続きの「昼の部屋」と「夜の部屋」～



○神明造から発展し、平安時代初期～9世紀までには成立したとされる古い本殿形式です。宇佐八幡宮や石清水八幡宮(京都府)の本殿形式です。

○二棟の切妻造平入の建物が前後に接続した形をしていて、前殿・後殿の中間に一間の「相の間」がつきます。その上の軒と軒が接するところに、金銅製の樋を渡しています(右写真)。



○前殿には椅子、後殿には御帳台(≒貴人の寝所)がおかれ、ともに神座です。よって昼は前殿、夜は後殿に神が移動するとされています。

Point! - 屋根いろいろ。

神社建築(本殿)で最も一般的な形が切妻造です。切妻+寄棟の入母屋造も一部見られます。屋根の材料は基本的に植物材(檜皮・柿)で葺きますが、近世になると銅板葺も見られるようになりました。瓦屋根は神社の本殿建築では使用されません。

	見取図	正面図	側面図
切妻造			
寄棟造			
入母屋造			
宝形造			

■様々な門のかたち

【楼門(二重門)】^{ろうもん} ～別宮八幡社楼門・宇佐神宮南中楼門^{みなみちゅうろうもん}～

下層に屋根のない二階建ての門で、二階には高欄つきの回縁があります(例:宇佐神宮南大楼門)。写真の別宮八幡社楼門は「二重門」といって、二階建てのそれぞれの階に屋根をかけたもので、楼門の一種です。屋根は入母屋造が主流となっています。

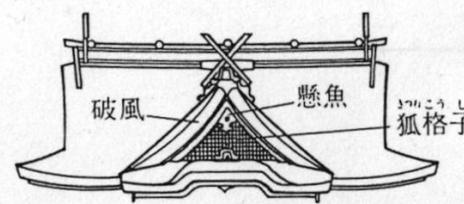


【唐門】^{からもん} ～若宮八幡神社唐門・宇佐神宮西大門^{からは}～

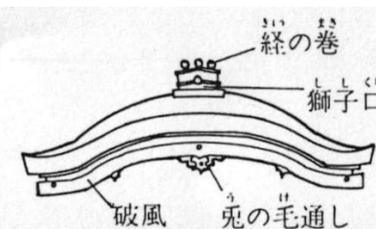
唐破風造の門で、平安時代末期に出現したとされています。両側面が唐破風で平入りのものを「平唐門」、唐破風が正面前後にあって妻入りのものを「向唐門」といいます(写真の若宮八幡神社唐門は「向唐門」です)。



Point! - 「破風(はふ)」のはなし。



千鳥破風(錦織神社本殿, 大阪府)



唐破風(法隆寺北室院, 奈良県)

屋根の切妻の三角形部分の屋根飾りを「破風」と総称します。その形から、「千鳥破風」「唐破風」「縫破風」などがあります。

■唐破風……左右両端が反っていて、中央が起っているもの。これを軒につけると「軒唐破風」です。「唐」は中国を意味しません。

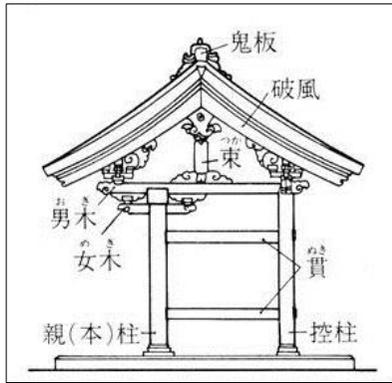
■千鳥破風…屋根面の中途に設けられた三角形破風。「千鳥」は三角形という意味です。

【薬医門(矢喰門)】～春日神社西門・(応曆寺山門)～

本柱(親柱)が門の中心線上から前方にズレていて、本柱と控柱を結ぶ梁の中間の上に東をのせた門のことで、

本柱をズラすことで、(本柱と控柱)2本で支えるべきところを、「親柱」一本でバランスをとって屋根を支えています(親柱2本と控柱4本で屋根を支えれば「四脚門」といって、春日神社神門がこれにあたります)。したがって、門を横から見るとずいぶんと「不安定」にみえます。

「薬医」という名称は、医家の門扉として使われたとも。「やくい」は矢を食い止める「矢喰」を連想するため、好まれて武家屋敷の正門として用いられました(例:杵築の武家屋敷磯矢邸など)。



本日巡る神社の紹介

宇佐神宮



豊前国一宮で、全国に約44,000社ある八幡宮の総本社。石清水八幡宮・管崎宮(鶴岡八幡宮とも)と並ぶ「日本三大八幡宮」の一つ。仏法守護・国家鎮護・武門の神様として歴史的に尊崇を集めてきました。参拝は一般と異なり「二拝四拍手一拝」。

若宮八幡神社



852年(仁寿2)に創祀されたと伝えられる古社。戦国時代には大友宗麟による二度の焼き打ちなどの受難がありましたが、江戸時代以降は島原藩主深溝松平家によって歴代藩主の尊崇を受け、1833年(天保4)には松平忠侯によって社殿が造替されました。

別宮八幡社



養老年間に宇佐神宮の分霊を祀り、「別宮」と号したと伝えられています。香々地荘の総鎮守として領主・田原氏の尊崇を受けました。旧暦の6月29・30日に行われる(現在では、新暦の7月29・30日に実施)「オンバレ」と呼ばれる御田植祭りで有名です。

■宇佐・国東の鳥居—宇佐鳥居—

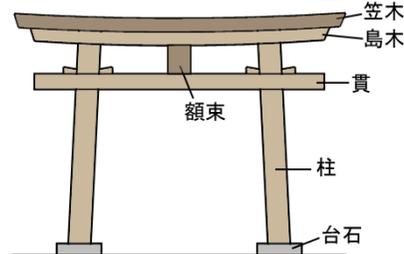
鳥居とは、神社において神域と人間が住む俗界とを区画する「结界」であって、神域への入口を示す「門」でもあります。

宇佐神宮の鳥居は「宇佐鳥居」と呼ばれ、一般的な「明神鳥居」と比べて笠木と島木の反りが強く、桧皮葺の屋根をかけています。額束は無く、台輪を柱上に置いているのが大きな特徴です。

豊後高田の神社の鳥居はどうなっているのでしょうか？



明神鳥居



春日神社



809年(大同4)の創建と伝わる古社。稻妻が光り雷鳴が轟く中、白鹿に乗った老人が現れ、「われは三笠山に住める翁ぞ」と告げたことから、この地に社殿を設けたのが始まりとされています。2011年(平成23)に本殿以下13件の建造物が国登録有形文化財に登録されました。